

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社エスエイサービス
事業所名	グループホーム恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番地1
自己評価作成日	平成 28年 10月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様は人生の大先輩であると言う事を忘れないよう心を込めた接遇をさせていただきます。また自宅で生活されているようにゆっくり・ゆったり過ごして頂き、認知症の利用者様をありにまま受け入れ、穏やかに健康で楽しい生活が送れるよう職員一丸となって努力しています。介護する側、される側というのではなく職員と共に、ご自分のペースでお手伝いなどをして頂き日常生活に関わってもらうことで生きがいを持てるよう支援させて頂きたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅が点在する田園地帯にあり、鉄筋2階建ての建物で、サービス付き高齢者住宅に併設されている。1階ホールは広く3ユニット合同のイベントを開催しており、地域との交流に積極的に取り組んでいる。管理者と職員は、理念を基に利用者一人ひとりに寄り添いながら、日々の暮らしを支えている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実績の積み重ねを感じさせる事業所である。経営者も職員の研修の機会を保障することで、資質の向上を目指している。医療面では、協力医の往診もあり、利用者の健康状態が管理されている。重度化が進んでも、地域の福祉施設や医療機関との協力関係が構築されており、利用者の安心した暮らしにつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム恵須栄

(ユニット名) 恵ユニット

記入者(管理者)

氏 名 佐伯 恵子

評価完了日 平成 28年 10月 27日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者様に、いつも明るく元気で過ごせるように、スタッフも心身ともに健康で過ごせるように気を付けている。 (外部評価) 開設当初作られた理念を大切に、「エ 笑顔満開、ス 健やかに、エ 円満な日々を、イ いきいきと過ごせる場所」を玄関や各ユニットのよく見える場所に掲示している。新人職員には、面接時に事業所の理念を説明している。各ユニット会で理念について話し合うこともある。	開設当初作られた理念であり、職員の意思統一を図るためにも職員間で話し合い、理念を踏まえて利用者の状況の変化や現状に合わせた、具体的な行動目標等が立案されることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩の時などお互い挨拶をしている。秋祭りの頃には地域の神輿や獅子舞が訪問し、利用者様も毎年楽しみにされている。 (外部評価) 天気のよい日には、3ユニットが合同で建物周囲をコースを決めて散歩している。利用者の家族が関わって、舞踊や詩吟や歌等、年3～4回のボランティアの受け入れがあり、利用者の楽しみとなっている。地域の敬老会や運動会の案内もあり参加して楽しんでいる。また、小学校の職場体験の受け入れを行い、交流を深めている。秋祭りには獅子舞や神輿の訪問があり、地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方からの希望があれば、その希望に沿った勉強会等を考えている。通勤途中に相談に来られることもあり、分かる範囲で話させてもらっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1度、運営推進会議を開催し、利用者様や家族様に 参加して頂いている。ご意見を反映出来る様にしている。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、介護相談 員、病院の医療ソーシャルワーカー、地域包括支援セン ター職員の参加を得て開催している。会議では、利用者状 況及び行事報告や、参加者の要望を聞き意見交換を行って いる。家族に案内状を送付すると共に、電話で参加をお願 いしているが、参加されない家族には運営推進会議の内容 を報告できていない現状である。	会議は参加者に事業所の様子や取組みについて、理解 や支援を得るために良い機会であり、参加されない家 族へ会議の内容の報告を行い、理解が得られるよう工 夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 病院のソーシャルワーカー等に運営推進会に参加して頂い ている。ご利用者のサービス向上となるように努めてい る。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員は運営推進会議に出席して、事 業所の実情を把握すると共に、情報の提供や助言を行って いる。また、困難なケース等の相談しやすい関係を築いて いる。市主催の研修会の案内があれば参加し情報を得てい る。毎月、市の介護相談員の訪問があり、利用者と話をし たり相談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関は出入り自由となっている。処遇会や日々の申 し送り時などで、職員間で話し合っている。利用者様の 自己決定を尊重し利用者様にとって不快のない、納得のい くケアを実施している。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成し、利用者一人ひとりの 状態を職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り 組んでいる。定期的に身体拘束についての勉強会が行われ ており、外部研修に参加した職員は職員会で伝達講習を行 い、理解を深め実践につなげている。玄関及びユニット は、自由に出入りすることはできるが、夜間のみ防犯安全 対策として施錠している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会のテーマとしても取り上げている。接遇委員会あり、施設内での言葉使いや接遇については、虐待につながらないように話し合いながら、予防に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 例えば、屋外に出ようとされる方がいれば、付添いで一緒に歩いて気分転換となるように、その方にあった対応に努めている。玄関は出入り自由としている。窓についても日中は開け閉め自由となっている。職員会、処遇会、各委員会でも常に話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約に関しては主に事務所が行なっている。利用者様や家族より説明を求められる時は回答出来るようにしている。必要と思われる時は事務所の職員にも関わってもらい理解・納得して頂けるように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会の時や、又目安箱を設置したりして、家族様からの要望や意見が反映できるようにしている。 (外部評価) 運営推進会議や面会時に、家族から意見や要望を聞くようにしている。要望があった場合はユニットリーダーが管理者に相談し、職員間で話し合い対応している。また、年1～2回家族会を開催し、家族同士で話せる場を設けるなど、家族から意見や要望が出やすい環境づくりに努めている。恵須栄便りを2か月に1回発行し、利用者の日常生活や行事内容を掲載し、家族に送付している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会議での意見交換や、日々の打ち合わせ等に於いて十分出来ていると思われる。 (外部評価) 月1回全職員が参加して職員会を開催し、利用者が快適に自宅と同じような環境で過ごすためには、どうすればよいかを話し合っている。また、衛生委員会、安全環境委員会、行事委員会等の委員会で意見を出し合っている。法人は職員の資質の向上を図るため、費用の補助や勤務調整を行って研修を受けやすいよう配慮するなど、資格取得を支援する体制を整えている。管理者は不定期に個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎日の勤務状況（休み含む）をほぼ把握し、職員との希望状況のすりあわせは十分に行われている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月勉強会を開催し、職員の研修を行って介護技術・知識の向上に繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 他事業者から毎年招待を受けて交流している。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の個人情報や家族状況や趣味等の早期把握をはかり、コミュニケーション作りを行っている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者のキーパーソンと、コミュニケーションを密にとり、 必要な情報交換に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 事務所と現場と連携深め、利用者様の家族が充分安心して 頂けるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 日々、常に利用者様が自身の親と思っ接し信頼を得る様 に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様の出来る事は支援して頂き、家族様と連携を取りな がら本人を支えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) 日々、利用者様の家族状況の把握を図り、思い出話等で情 報を取り関係の継続を図る様努めている。 (外部評価) 入居時に、これまでの馴染みの人や場所の情報を家族から 聞き取り、継続できるように支援している。また、家族の 協力を得て馴染みの美容室やお墓参りに出かけたりしてい る。訪問理容も月1回来所しており、ほとんどの利用者が 利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者様の生活歴・趣味などをアセスメントし、似たような生活歴・趣味の方がおられたら、職員が間に入り会話を楽しませている。職員も他利用者様にも会話が広がる様努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 訪問や電話による相談や支援を快く受けさせてもらっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の利用者様の趣味や生活歴をアセスメントし、利用者様の把握に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取るよう日々心がけており、家族の協力を得て趣味や得意な物を作り展示するなど、生きがいにつながる支援に努めている。意思疎通困難な利用者には日常の様子から察したり、家族に確認をしている。利用者の思いや意向を把握した内容を伝達記録に残し、処遇会で話し合いを行い共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様との会話の中で、生活歴などをアセスメントをし、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活スタイルを確認し、現状の把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様の意向を伺い、家族様との情報交換を密に行って介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者個々の担当者がアセスメントして処遇会で話し合い、計画作成担当者が立案しているため、利用者や家族の意向が計画に反映されやすく、利用者本位の計画になるよう留意されている。介護計画の実践状況は1日の利用者記録に残し、職員全員が把握している。1か月に1回モニタリングを行い、6か月毎に見直している。介護計画は家族の面会時に説明し、県外在住の家族には電話による説明を行い、訪問時に同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の職員間の連携を重視し、スムーズな報告・連絡・相談を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 固定概念にとらわれずに、その時その時の状況に対し、臨機応変に対応をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議時で、他職種との連携を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所の協力病院及び、本人のかかりつけ医と関係を築き 支援している。 (外部評価) 月1回協力医の往診がある。受診支援は基本的に家族が付 き添い、状態を記録した受診依頼書を持参し、家族より伝 達を受け経過記録に記入することで内容を共有するよう にしている。耳鼻科、眼科等の専門外来に通院する利用者も おり、家族が付き添い、できない場合は職員が付き添っ ている。歯科の往診もあるが、従来のかかりつけ歯科を受診 する利用者が多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者に体調変化が見られる時は、ユニットリーダーに報 告し、ユニットリーダーが看護師に報告し連携をはかって いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 主にホーム長やユニットリーダーが情報交換や相談に努め ているが、職員も入院時に関して情報提供も共有してい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院受診時や、体調不良時は細かく状況説明をしている が、終末期のあり方については十分ではないと思われる。 今後入居時に本人や家族様に意向や思いを確認し、事業所 で出来る事・出来ない事を話したいと考えている。 (外部評価) 重度化及び看取りに関する指針は作成されていない。これ まで看取りの経験はなく、地域の福祉施設や医療機関に搬 送を行い、協力関係が構築されている。管理者は、今後利 用者や家族からの要望を聞くと共に、職員間で話し合いを 行い、家族の要望に対応できるよう看取りの体制づくりに 努めたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な勉強会で取り入れてはいるが、実際に即した、緊急対応等は、充分とは言えないと思われる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に地震等の災害を想定した訓練を実施している。地域の方も協力して頂ける体制を取る必要がある。 (外部評価) 年2回、昼間と夜間の災害を想定した避難訓練を実施している。その内1回は消防署の立会いで行われているが、地域住民は参加していない。避難経路の地図は各ユニットに掲示している。緊急連絡網は作成しているが、実践訓練は行っていない。災害に備えた備品の準備はしている。	災害時における対策として、職員だけの避難誘導には困難や限界があり、近隣住民の協力体制を整えることが望まれる。また、職員緊急連絡網の整備はされているが実践訓練を行っていないため、連絡体制の再確認を行い、職員への周知徹底ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 月に一回、自己評価などで振り返っている。また、接遇会議を設置し利用者様の接遇を意識した声掛け、ケアのあり方について話し合う機会を持っている。 (外部評価) 職員は、思いやりのある声かけやケアのあり方について話し合いを行っている。利用者と職員の会話は自然で、利用者は穏やかに過ごしている。トイレの入口にカーテンがつけられ、ドアが開いても目隠しになるよう配慮している。月1回接遇委員会を開催して、事業所での問題点等について検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 御本人様の自己決定に働きかけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ご利用者一人一人のペースに合わせ、無理のないように声かけし対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ご利用者の好みも加味しながら、その日に着る服が選べるように工夫している。前日の夕、スタッフと一緒に選ぶ等。食後等、衣類に汚れがないように配慮している。入浴後は特にご利用者に話しかけながら、好みの髪形となるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事前に嚥下体操をし、誤嚥予防を意識している。また食事前に旬の食材について話しをして食思良好となるようにしている。また食後の食器拭きを楽しみされている方もおられ、協力お願いしている。 (外部評価) 食材は外部委託業者から配送され、管理栄養士が献立を作成し、主食を各ユニットで調理している。事業所と委託業者と地域の福祉施設との合同で給食会議を開催し、利用者の食事に対する要望が取り入れられている。季節を感じるように、お花見弁当や芋炊きをしたり、手作りのおやつを作ったり、利用者の楽しみとなる工夫をしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。利用者に声かけし、台拭きや食器拭き等できることを手伝ってもらえるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 摂取量が少ない方は食べやすいように、副食を刻んだたり等工夫している。食欲が向上するような声掛けも工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自力で出来る方は時間を見ながら声掛けをしている。自力で出来ない方には、無理のないように声掛けや安全確認をしながら対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ご利用者様個々のペースに合わせたトイレ支援を行っている。排泄チェックを参考に、なるべくトイレの便器で排泄できるように支援している。 (外部評価) 職員の声かけや誘導により、日中はすべての利用者がトイレで排泄を行っている。紙パンツの利用者が多く、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。夜間のみオムツを使用している利用者は、時間毎に交換を行っている。ポータブルトイレを利用していた利用者也、状態の改善によりトイレでの排泄を促すなど、柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) トイレにて腹部マッサージを試みたり水分補給を十分に行っている。ヤクルトやヨーグルも積極的に食してもらっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴日と入浴時間はほぼ決まっている。ご利用者の体調やその時の気分等配慮し、入浴日を変更する事もある。入浴中には、ご利用者の話が一对一で聴けるいい機会なので、コミュニケーションも大切にしている。 (外部評価) 入浴は午後に行い、週2回は入れるように支援している。利用者の負担に配慮しながら、清潔が保てるよう夏場は週3回入浴できるようタイミングのよい声かけに努めている。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく時間をずらして声かけしたり、入浴日を変更し入浴できるよう支援している。現在は入浴が苦手な利用者はいないが、同性介助の希望に対応したり、入浴剤を使用するなど工夫して入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は、ラジオ体操やレクリエーションで心身ともに活性化を図っている。また天気を見ながら屋外散歩等で気分転換を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ご利用者の病院受診記録お見て、薬の内容を確認し、薬の目的や副作用等の理解に努め、又服薬時本人様と確認するなど気をつけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日々レクリエーションやラジオ体操で体力低下を予防している。食器拭きや洗濯物たたみをお願いし、家庭の雰囲気や大事にしている。施設行事やボランティアの訪問にて、楽しいひと時となるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) お墓参りや、お正月には家族対応で外出されている。地域の運動会や、敬老会時は参加されているが、主に職員付添いとなっている。 (外部評価) 事業所周辺の散歩は日常的に行い、日々の気分転換につながっている。お花見やドライブ等年間行事を立て、外出ができるよう支援している。お墓参りや外食等家族と一緒に外出を楽しんでいる利用者もいる。利用者との普段の何気ない会話から、季節を感じるつくし採りに出かけ喜ばれている。利用者の希望に応じて、外出計画を立てて出かけ、生活に張りが持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金については原則事務所預りとなっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話については、希望に応じている。手紙については、自ら書かれている方はほとんどいない状況です。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 毎日、午前中、細目に掃除している。トイレ、台所は臭いが気にならないように気を付けている。テーブルや玄関先に、季節の花や草を置き、季節感を感じて頂いている。	
			(外部評価) リビングルームは広いスペースが確保され、食卓やソファがあり、日中はホールで過ごす利用者が多く、思い思いの場所でくつろぐことができる。1階に1ユニット、2階に2ユニットがあり広さが異なっており、1階のホールで3ユニット合同でイベントを行っている。利用者の希望で音楽をかけたり、テレビを見たりして楽しんでいる。壁には塗り絵や書道等利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テーブルの配置を工夫し、一人一人が自由な時間を持てたり、ユニット利用者皆で過ごせる時間が持てるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の協力も仰ぎ、本人の希望なども聴きながら、本人の思いに添うように努めている。	
			(外部評価) 1階にある居室は広く、エアコンとトイレ、洗面台、シャワーの設備があり、夫婦で入居している利用者もいる。2階居室はやや狭い造りとなっている。自宅で愛用していたベッドや家具等を持ち込み、利用者が家族写真の飾りつけやレイアウトを行い、居心地よく過ごせるよう配慮されている。職員は朝清掃を行い、気持ちよく清潔に過ごしてもらえよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人一人が出来事をして頂いてる。必要時はお手伝いをしている。ラジオ体操、口腔体操、歩行練習、屋外散歩等で、体力低下を予防し、ADLの向上を測っている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社エスエイサービス
事業所名	グループホーム恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番地1
自己評価作成日	平成 28年 10月 27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の声をよく聞き、日頃の状態観察や表情観察にて気付きを持てるよう、スタッフ全員が意識出来る様にしている。利用者様の思いや、家族様の思い、立場を理解し、相談に応じられるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅が点在する田園地帯にあり、鉄筋2階建ての建物で、サービス付き高齢者住宅に併設されている。1階ホールは広く3ユニット合同のイベントを開催しており、地域との交流に積極的に取り組んでいる。管理者と職員は、理念を基に利用者一人ひとりに寄り添いながら、日々の暮らしを支えている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実績の積み重ねを感じさせる事業所である。経営者も職員の研修の機会を保障することで、資質の向上を目指している。医療面では、協力医の往診もあり、利用者の健康状態が管理されている。重度化が進んでも、地域の福祉施設や医療機関との協力関係が構築されており、利用者の安心した暮らしにつながっている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム恵須栄

(ユニット名) 寿ユニット

記入者(管理者)

氏 名 佐伯 恵子

評価完了日 平成 28年 10月 27日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を共有でき実践につなげる努力をしている。 (外部評価) 開設当初作られた理念を大切に、「エ 笑顔満開、ス 健やかに、エ 円満な日々を、イ いきいきと過ごせる場所」を玄関や各ユニットのよく見える場所に掲示している。新人職員には、面接時に事業所の理念を説明している。各ユニット会で理念について話し合うこともある。	開設当初作られた理念であり、職員の意思統一を図るためにも職員間で話し合い、理念を踏まえて利用者の状況の変化や現状に合わせた、具体的な行動目標等が立案されることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 通勤時や利用者様との散歩の際にお互いが挨拶をしている。秋祭りの頃には、地域の神輿やししが訪問し、利用者様は楽しみにしている。 (外部評価) 天気のよい日には、3ユニットが合同で建物周囲をコースを決めて散歩している。利用者の家族が関わって、舞踊や詩吟や歌等、年3～4回のボランティアの受け入れがあり、利用者の楽しみとなっている。地域の敬老会や運動会の案内もあり参加して楽しんでいる。また、小学校の職場体験の受け入れを行い、交流を深めている。秋祭りには獅子舞や神輿の訪問があり、地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症高齢者についての支援のお願いする機会、話し合いを持つ機会がない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回開催しており、利用者様や御家族様の参加にて 意見を伺う事ができている。 (外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、介護相談員、 病院の医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター職員 の参加を得て開催している。会議では、利用者状況及び行事 報告や、参加者の要望を聞き意見交換を行っている。家族に 案内状を送付すると共に、電話で参加をお願いしているが、 参加されない家族には運営推進会議の内容を報告できていな い現状である。	会議は参加者に事業所の様子や取組みについて、理解 や支援を得るために良い機会であり、参加されない家 族へ会議の内容の報告を行い、理解が得られるよう工 夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 毎月1回、ユニットごとに訪問して下さる介護相談委員の 方から情報や提案を頂いている。 (外部評価) 地域包括支援センター職員は運営推進会議に出席して、事業 所の実情を把握すると共に、情報の提供や助言を行ってい る。また、困難なケース等の相談しやすい関係を築いてい る。市主催の研修会の案内があれば参加し情報を得ている。 毎月、市の介護相談員の訪問があり、利用者と話をしたり相 談に応じている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の勉強会を行っているが、身体拘束となるような事 例はない。 (外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成し、利用者一人ひとりの 状態を職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組ん でいる。定期的に身体拘束についての勉強会が行われてお り、外部研修に参加した職員は職員会で伝達講習を行い、理 解を深め実践につなげている。玄関及びユニットは、自由に 出入りすることはできるが、夜間のみ防犯安全対策として施 錠している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 言葉の虐待もあるということを念頭に置き接遇委員会を月に1回開いている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強会にて日常生活自立支援や成年後見人制度を学んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には、十分な時間を持ち家族様の希望に耳を傾けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ユニットリーダーや管理者が家族様からの意見、要望について伺っている。リーダー会や職員会にて検討し対応している。 (外部評価) 運営推進会議や面会時に、家族から意見や要望を聞くようにしている。要望があった場合はユニットリーダーが管理者に相談し、職員間で話し合い対応している。また、年1～2回家族会を開催し、家族同士で話せる場を設けるなど、家族から意見や要望が出やすい環境づくりに努めている。恵須栄便りを2か月に1回発行し、利用者の日常生活や行事内容を掲載し、家族に送付している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営で大切な事は、職員会や運営推進会議で知り得ることが出来る。 (外部評価) 月1回全職員が参加して職員会を開催し、利用者が快適に自宅と同じような環境で過ごすためには、どうすればよいかを話し合っている。また、衛生委員会、安全環境委員会、行事委員会等の委員会で意見を出し合っている。法人は職員の資質の向上を図るため、費用の補助や勤務調整を行って研修を受けやすいよう配慮するなど、資格取得を支援する体制を整えている。管理者は不定期に個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 各スタッフが向上心を持てるよう、毎月自己評価表を提出している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) スタッフの勉強会を行い、色んな知識を身に付ける機会を持ち向上出来る様にしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 利用者様を介しての交流はできている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 他事業所の職員や御家族様、介護支援専門員と情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会時等、ご家族様の意見を伺っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービスとしてできる支援とできない支援との説明を行ない、ユニットリーダーや看護師を含め話し合うように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の経歴や性格等を鑑みて個別化した関係性を築けるようにしている。利用者様が話しやすいよう、意識し取り組んでいる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族様が面会に来られた際、本人様と向き合える時間を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ほとんどの利用者様にとっての馴染みの関係は出来ている。 (外部評価) 入居時に、これまでの馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取り、継続できるように支援している。また、家族の協力を得て馴染みの美容室やお墓参りに出かけたりしている。訪問理容も月1回来所しており、ほとんどの利用者が利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者様の性格等、食事の際の席や、レクリエーション活動時のスタッフの配置を工夫している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 御本人様の性格や習慣、好みなどケアについても必要な情報の提供出来る様にしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様、ご家族様の希望、意向を伺い、利用者様の意思実現に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取るよう日々心がけており、家族の協力を得て趣味や得意な物を作り展示するなど、生きがいにつながる支援に努めている。意思疎通困難な利用者には日常の様子から察したり、家族に確認をしている。利用者の思いや意向を把握した内容を伝達記録に残し、処遇会で話し合いを行い共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者様が自分らしく生活できるよう、そして支援ができるよう情報収集に努めスタッフ間で話し合っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 処遇会、委員会を開催し一人一人の利用者様の現状把握が全スタッフにわかるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者様の暮らしの中で様子を観察している。面会に来られた時に都度、本人様の状況を伝え、家族の意見を反映して介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者個々の担当者がアセスメントして処遇会で話し合い、計画作成担当者が立案しているため、利用者や家族の意向が計画に反映されやすく、利用者本位の計画になるよう留意されている。介護計画の実践状況は1日の利用者記録に残し、職員全員が把握している。1か月に1回モニタリングを行い、6か月毎に見直している。介護計画は家族の面会時に説明し、県外在住の家族には電話による説明を行い、訪問時に同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の記録においては一日の様子、受診状況、服薬状況、面会等、記録に残し、特記と思われることを含め、朝礼、夕礼で申し送りをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の現状に合わせたケアは、ユニット、ホーム全体のレベルで対応できる限りの事は行う努力をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員や、地域内のボランティアの訪問は定期的にある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者様やご家族様が信頼し、かかりつけ医となっている医 療機関はもちろん、受診希望される医療機関には受信依頼書 や、電話連絡にてスムーズに受診できるよう連携を図ってい る。 (外部評価) 月1回協力医の往診がある。受診支援は基本的に家族が付き 添い、状態を記録した受診依頼書を持参し、家族より伝達を 受け経過記録に記入することで内容を共有するようにしてい る。耳鼻科、眼科等の専門外来に通院する利用者もあり、家 族が付き添い、できない場合は職員が付き添っている。歯科 の往診もあるが、従来のかかりつけ歯科を受診する利用者が 多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 受診時や往診時の様子を踏まえ、日々の利用者様の様子や意 向を伝え、その都度の解決にて、より良いケアに繋げること ができています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者様が入院となった場合は、病院の医療連携室やソー シャルワーカー等を通じて情報提供書の提出や電話連絡行な い、状況把握、退院に向けての対応をしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者様の意向、ご家族の思いを理解し、安心していただ けるような対応をしていくことを説明している。 (外部評価) 重度化及び看取りに関する指針は作成されていない。これ まで看取りの経験はなく、地域の福祉施設や医療機関に搬送 を行い、協力関係が構築されている。管理者は、今後利用者 や家族からの要望を聞くと共に、職員間で話し合いを行い、 家族の要望に対応できるよう看取りの体制づくりに努めたい と考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 現在、毎月の勉強会や、マニュアルを参考にし、実際の処置法の講義、DVDによる自己学習に努めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 義務付けされている避難訓練は行っているが歩行が困難な方、不穏状態になり得る方がいる中で、訓練通りに非難できるとは言いづらいが、民生委員も含め、地域の方には協力を仰げるよう体制を築く必要がある。 (外部評価) 年2回、昼間と夜間の災害を想定した避難訓練を実施している。その内1回は消防署の立会いで行われているが、地域住民は参加していない。避難経路の地図は各ユニットに掲示している。緊急連絡網は作成しているが、実践訓練は行っていない。災害に備えた備品の準備はしている。	災害時における対策として、職員だけの避難誘導には困難や限界があり、近隣住民の協力体制を整えることが望まれる。また、職員緊急連絡網の整備はされているが実践訓練を行っていないため、連絡体制の再確認を行い、職員への周知徹底ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 接遇を意識した声かけ、ケアのあり方について、接遇委員会を設置し、毎月、話し合いを持っている。職員会議の中で決定事項や、注意点、改善策について、話している。また、毎月の自己評価にて職員一人一人、自身のチェックをしている。 (外部評価) 職員は、思いやりのある声かけやケアのあり方について話し合いを行っている。利用者と職員の会話は自然で、利用者は穏やかに過ごしている。トイレの入口にカーテンがつけられ、ドアが開いても目隠しになるよう配慮している。月1回接遇委員会を開催して、事業所での問題点等について検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴後の衣類や、食事の食べる順番など利用者様が決められるような声掛けのしかた、場面作りを心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 各委員会や、職員会で常に利用者様優先であることスタッフの都合のケアにならないよう話し合っている。ただ、時間帯や、職員の数によりこちらの都合になっていることもある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 使い慣れた化粧品や、整容道具、ご家族様の協力にて準備していただいている。出来るだけ、利用者様に洋服を選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者様一人一人状態を把握し、食べやすい状態を工夫して提供している。 (外部評価) 食材は外部委託業者から配送され、管理栄養士が献立を作成し、主食を各ユニットで調理している。事業所と委託業者と地域の福祉施設との合同で給食会議を開催し、利用者の食事に対する要望が取り入れられている。季節を感じるように、お花見弁当や芋炊きをしたり、手作りのおやつを作ったり、利用者の楽しみとなる工夫をしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。利用者に声かけし、台拭きや食器拭き等できることを手伝ってもらえるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者様の状態に沿ったキザミ食やトロミ等を活用し摂取できるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時、毎食後行っており、口腔内も意識して観察している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンを把握し、日中、夜間ともに定時以外の随時的なトイレ誘導、排泄介助を行っている。テープ式の紙おむつ使用者はおらず、トイレを使用しての排泄介助である。 (外部評価) 職員の声かけや誘導により、日中はすべての利用者がトイレで排泄を行っている。紙パンツの利用者が多く、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。夜間のみオムツを使用している利用者は、時間毎に交換を行っている。ポータブルトイレを利用していた利用者也、状態の改善によりトイレでの排泄を促すなど、柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 緩下剤等の薬剤に頼ることなく、毎日、排便チェックをし、水分や食品で、なるべく自然排便に繋がるよう心がけているが、便秘時は主治医の指示通りの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日や時間帯は決めている。体調面に留意しながら適切な入浴時間や、洗身、洗髪介助しながら1対1のコミュニケーションを楽しんでいる。まれに利用者様より、入浴介助者の指名があり、対応することもある。拒否がある場合には無理強いせず、時間を置いたり、日にち変更をする。 (外部評価) 入浴は午後に行い、週2回は入れるように支援している。利用者の負担に配慮しながら、清潔が保てるよう夏場は週3回入浴できるようタイミングのよい声かけに努めている。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく時間をずらして声かけしたり、入浴日を変更し入浴できるよう支援している。現在は入浴が苦手な利用者はいないが、同性介助の希望に対応したり、入浴剤を使用するなど工夫して入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の休息はフロアでも居室でも自由にいただいている。自ら訴えることが困難な利用者様には表情や、態度にて、スタッフが判断し、声かけ、介助にて休んでいただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 看護師やユニットリーダーは把握してるが、把握できていないスタッフもいる。お薬手帳や、処方箋で確認し、周知していく必要あり。服薬においては、飲み込みまでの確認を徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様はもちろん、ご家族様の意向も伺い、ホームの中でできること、楽しみとして持てる役割や、趣味が続けられるよう場面作り、機会作りをしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 屋外散歩や日向ぼっこ、毎月の全体行事等支援をしている。家族様にも積極的な外出の機会をお願いしている。 (外部評価) 事業所周辺の散歩は日常的に行い、日々の気分転換につながっている。お花見やドライブ等年間行事を立て、外出ができるよう支援している。お墓参りや外食等家族と一緒に外出を楽しんでいる利用者もいる。利用者との普段の何気ない会話から、季節を感じるつくし採りに出かけ喜ばれている。利用者の希望に応じて、外出計画を立てて出かけ、生活に張りが持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在ほどの利用者様もお金の所持、管理はされていない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ホームに届いた手紙は、その都度、利用者様にお渡しし、返事を書かれるかどうか、電話をかけられるかどうかお伺いし対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 普段の憩いの場となるフロアでは音楽をかけてみたり、玄関や洗面台にお花をかざったりしている。季節感のある壁画を創作することもある。定期的に消毒、換気、清掃している。 (外部評価) リビングルームは広いスペースが確保され、食卓やソファがあり、日中はホールで過ごす利用者が多く、思い思いの場所でくつろぐことができる。1階に1ユニット、2階に2ユニットがあり広さが異なっており、1階のホールで3ユニット合同でイベントを行っている。利用者の希望で音楽をかけたり、テレビを見たりして楽しんでいる。壁には塗り絵や書道等利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食事の際のテーブル以外は利用者様の自由に移動されている。ソファでくつろぐ姿もみられる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は利用者様、ご家族様の自由に配置していただいております。馴染みのものを持ち込まれている方もいる。安心できる空間にしている。 (外部評価) 1階にある居室は広く、エアコンとトイレ、洗面台、シャワーの設備があり、夫婦で入居している利用者もいる。2階居室はやや狭い造りとなっている。自宅で愛用していたベッドや家具等を持ち込み、利用者が家族写真の飾りつけやレイアウトを行い、居心地よく過ごせるよう配慮されている。職員は朝清掃を行い、気持ちよく清潔に過ごしてもらえるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子や歩行器使用の利用者様が使用しやすい機能的な洗面台、トイレ、風呂場とは言えないが、不便ながらも、利用者様のできることを考え、自立支援を意識している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871200139
法人名	株式会社エスエイサービス
事業所名	グループホーム恵須栄
所在地	愛媛県西条市大野330番地1
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 27 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成28年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日頃から利用者様に対して積極的に挨拶や声掛けを行うことにより、その日の体調や気分を把握できるよう職員一同となって利用者様とコミュニケーションを取るよう心がけています。また、一人一人の個性を大切にそしてその人らしく生活出来る事を目標に、未熟な面も多々ありますが微力ながらも「自立」へのお手伝いをさせて頂いております。そして処遇会や申し送りノート等で職員間統一した介護を心がける一方で利用者様と同じく職員も年齢に幅があり性格もそれぞれ異なる故、利用者様のみならず職員の個性をも殺さないような介護を目指しています。利用者様、職員に拘らず一人の人間対人間として互いに畏敬の念を抱きつつも、忌憚のない意見を言いやすい環境作りに努めてはおりますが、まだまだ利用者様から教わることの方が多く、謙虚な気持ちを持ちつつ笑顔を忘れないように利用者様と対峙させて頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、住宅が点在する田園地帯にあり、鉄筋2階建ての建物で、サービス付き高齢者住宅に併設されている。1階ホールは広く3ユニット合同のイベントを開催しており、地域との交流に積極的に取り組んでいる。管理者と職員は、理念を基に利用者一人ひとりに寄り添いながら、日々の暮らしを支えている。開設当初から勤務している職員も多く、豊かな経験と実績の積み重ねを感じさせる事業所である。経営者も職員の研修の機会を保障することで、資質の向上を目指している。医療面では、協力医の往診もあり、利用者の健康状態が管理されている。重度化が進んでも、地域の福祉施設や医療機関との協力関係が構築されており、利用者の安心した暮らしにつながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホーム恵須栄

(ユニット名) 栄ユニット

記入者(管理者)

氏 名 佐伯 恵子

評価完了日 平成 28 年 10 月 27 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) エ 笑顔満開で ス 健やかに エ 円満な日々を イ いきいきと過ごせる場所を理念とし、住み慣れた地域でその人らしくいきいきと過ごせる場所になるよう共有し実践出来るよう取り組んでいる。 (外部評価) 開設当初作られた理念を大切に、「エ 笑顔満開、ス 健やかに、エ 円満な日々を、イ いきいきと過ごせる場所」を玄関や各ユニットのよく見える場所に掲示している。新人職員には、面接時に事業所の理念を説明している。各ユニット会で理念について話し合うこともある。	開設当初作られた理念であり、職員の意思統一を図るためにも職員間で話し合い、理念を踏まえて利用者の状況の変化や現状に合わせた、具体的な行動目標等が立案されることを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の敬老会、亀天会の夏祭りでは地域の人との交流もあり秋祭りの獅子舞、子供神輿など見て楽しんで頂き、季節行事を通じて地域とのつながりを深めている。 (外部評価) 天気のよい日には、3ユニットが合同で建物周囲をコースを決めて散歩している。利用者の家族が関わって、舞踊や詩吟や歌等、年3～4回のボランティアの受け入れがあり、利用者の楽しみとなっている。地域の敬老会や運動会の案内もあり参加して楽しんでいる。また、小学校の職場体験の受け入れを行い、交流を深めている。秋祭りには獅子舞や神輿の訪問があり、地域の方との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から要望があれば勉強会等に参加させて頂きたいと考えている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 利用者様の利用状況報告や行事報告をこまめに行っている。また 会議参加者からのご意見を拝聴し、サービス向上へと繋げる 事が出来る様に努めている。実際のサービスを視覚化出来る 様、「恵須栄新聞」を発刊配布している。	
			(外部評価) 運営推進会議には、利用者や家族、民生委員、介護相談員、病 院の医療ソーシャルワーカー、地域包括支援センター職員の参 加を得て開催している。会議では、利用者状況及び行事報告 や、参加者の要望を聞き意見交換を行っている。家族に案内状 を送付すると共に、電話で参加をお願いしているが、参加され ない家族には運営推進会議の内容を報告できていない現状であ る。	会議は参加者に事業所の様子や取組みについて、理解 や支援を得るために良い機会であり、参加されない家 族へ会議の内容の報告を行い、理解が得られるよう工 夫を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 西条市の介護相談員さんが定期的に来訪され高齢者向けのレク を通じて利用者様や職員と積極的に交流してくださりながら情 報交換を行っている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター職員は運営推進会議に出席して、事業所 の実情を把握すると共に、情報の提供や助言を行っている。また、 困難なケース等の相談しやすい関係を築いている。市主催 の研修会の案内があれば参加し情報を得ている。毎月、市の介 護相談員の訪問があり、利用者とは話をしたり相談に応じてい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成しており、新しい職員が加 わる度に指導を行っている。また職員会議の後にも勉強会を行 い適宜周知している。本年度だけでも最低2回の予定があり意 識を高めている。玄関や居室等の施錠はしておらず無断退去の リスクがある利用者様には職員間連携をとりゆったりと傾聴出 来るよう努めている。	
			(外部評価) 身体拘束防止等のマニュアルを作成し、利用者一人ひとりの状 態を職員間で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでい る。定期的に身体拘束についての勉強会が行われており、外部 研修に参加した職員は職員会で伝達講習を行い、理解を深め実 践につなげている。玄関及びユニットは、自由に出入りするこ とはできるが、夜間のみ防犯安全対策として施錠している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体拘束防止と同じく職員会議の後に勉強会を行っており同じく2回の予定がある。利用者様の身体の変化を具に観察しヒヤリハット・事故報告書にあげて虐待等が見過ごされない様に書面化している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員会の後の勉強会のテーマとして勉強はしているが、職員間格差があり残念ながらそれらの制度を良く理解していると言いはない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者・参与・ユニットリーダーが主になって行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会及び、普段の利用者様の病院受診、面会等で御家族様とお会いする機会は多岐に渡るも意見・要望はさほど多くは上がってこない。稀にみられた時はしっかりと時間を割き意見・要望を聞きいれている。	
			(外部評価) 運営推進会議や面会時に、家族から意見や要望を聞くようにしている。要望があった場合はユニットリーダーが管理者に相談し、職員間で話し合い対応している。また、年1～2回家族会を開催し、家族同士で話せる場を設けるなど、家族から意見や要望が出やすい環境づくりに努めている。恵須栄便りを2か月に1回発行し、利用者の日常生活や行事内容を掲載し、家族に送付している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会や処遇会で意見を述べる様促してはいるが一部の職員しか意見や提案を述べていない若い職員が増えており遠慮が垣間みえる。 (外部評価) 月1回全職員が参加して職員会を開催し、利用者が快適に自宅と同じような環境で過ごすためには、どうすればよいかを話し合っている。また、衛生委員会、安全環境委員会、行事委員会等の委員会で意見を出し合っている。法人は職員の資質の向上を図るため、費用の補助や勤務調整を行って研修を受けやすいよう配慮するなど、資格取得を支援する体制を整えている。管理者は不定期に個人面談を行い、職員と意思疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 自己評価表や能力手当支給判断表、勉強会における反省と抱負を毎月提出しており公平な就業環境が構築されているかと思われる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内においては研修や勉強会が定期的に行われてはいるが個々の自主的研修には参加する職員はほぼ限局されている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同一グループ内での同業者や利用者様はさまざまな行事に参加して交流を図っている他事業者からは年に1回程は招待を受け交流が図られている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ユニットリーダーより新しい利用者様の情報提供を受けアセスメント→ケアプランへと結びつけている。また本人様の性格に応じた個別対応が図られるよう職員間で意見交換や申し送りノートを利用して工夫している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族様が話しやすい雰囲気作りをし、家族様や本人様の立場になって困っている事、不安な事に耳を傾けユニット内で情報を共有し良好な関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様、家族様がその時に必要とされている事を的確に把握し、必要とされている支援が出来るよう情報交換などし他のサービスの情報があれば説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 介護される側、する側と言うのではなく人生の先輩として尊敬し、生活のお手伝いをさせて頂くという関係が築けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人様を支える関係作りには家族様の協力が必要であり、本人様のこれまでの生活を聞いたり行事に参加して頂いたりもしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に行ったりと言うのは家族様との外出時に行えている。 (外部評価) 入居時に、これまでの馴染みの人や場所の情報を家族から聞き取り、継続できるように支援している。また、家族の協力を得て馴染みの美容室やお墓参りに出かけたりしている。訪問理容も月1回来所しており、ほとんどの利用者が利用している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎月の行事などでは3ユニットが一緒に行い交流も出来ている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用終了後も必要であれば情報交換や相談など支援に努めたいと思う。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話や表情から利用者様の思いを組取り、ユニット内で話し合い本人本位の生活が出来るよう検討している。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取るよう日々心がけており、家族の協力を得て趣味や得意な物を作り展示するなど、生きがいにつながる支援に努めている。意思疎通困難な利用者には日常の様子から察したり、家族に確認をしている。利用者の思いや意向を把握した内容を伝達記録に残し、処遇会で話し合いを行い共有して支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族様からこれまでの生活の様子を聞いたりアセスメントなどから情報収集を行い利用者様が安心して頂けるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様のちょっとした変化でも申し送りノートや職員間の話し合いで現状把握できるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人様、家族様の意向を確認し日々の生活で知り得た情報を職員間で話し合い現状に合った介護計画を作成している。 (外部評価) 利用者個々の担当者がアセスメントして処遇会で話し合い、計画作成担当者が立案しているため、利用者や家族の意向が計画に反映されやすく、利用者本位の計画になるよう留意されている。介護計画の実践状況は1日の利用者記録に残し、職員全員が把握している。1か月に1回モニタリングを行い、6か月毎に見直している。介護計画は家族の面会時に説明し、県外在住の家族には電話による説明を行い、訪問時に同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子、気づき、工夫など申し送りノートに記入し職員間で情報を共有し、実践、見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時の状況に応じて、柔軟なサービスに努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会時では地域包括支援センター、民生委員と意見交換、情報を共有し支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び御家族様の希望によってかかりつけ医院もしくは施設 に往診に来られる医院を決めてもらっている。	
			(外部評価) 月1回協力医の往診がある。受診支援は基本的に家族が付き添 い、状態を記録した受診依頼書を持参し、家族より伝達を受け 経過記録に記入することで内容を共有するようにしている。耳 鼻科、眼科等の専門外来に通院する利用者もあり、家族が付き 添い、できない場合は職員が付き添っている。歯科の往診もあ るが、従来のかかりつけ歯科を受診する利用者が多い。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調の変化など受診依頼書に書いて受診してもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院になった場合は定期的に病院に行って情報交換行ってい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化した場合や終末期は御家族と話し合い方針を共有する。	
			(外部評価) 重度化及び看取りに関する指針は作成されていない。これまで 看取りの経験はなく、地域の福祉施設や医療機関に搬送を行 い、協力関係が構築されている。管理者は、今後利用者や家族 からの要望を聞くと共に、職員間で話し合いを行い、家族の要 望に対応できるよう看取りの体制づくりに努めたいと考えてい る。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会などで応急手当や初期対応を話し合っているがあまり訓練は行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に火災や地震の対策・訓練を行っている。 (外部評価) 年2回、昼間と夜間の災害を想定した避難訓練を実施している。その内1回は消防署の立会いで行われているが、地域住民は参加していない。避難経路の地図は各ユニットに掲示している。緊急連絡網は作成しているが、実践訓練は行っていない。災害に備えた備品の準備はしている。	災害時における対策として、職員だけの避難誘導には困難や限界があり、近隣住民の協力体制を整えることが望まれる。また、職員緊急連絡網の整備はされているが実践訓練を行っていないため、連絡体制の再確認を行い、職員への周知徹底ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 月に一回、自己評価などで振り返り、接遇など気を付けるようにしている。 (外部評価) 職員は、思いやりのある声かけやケアのあり方について話し合いを行っている。利用者と職員の会話は自然で、利用者は穏やかに過ごしている。トイレの入口にカーテンがつられ、ドアが開いても目隠しになるよう配慮している。月1回接遇委員会を開催して、事業所での問題点等について検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の思いなどゆっくりと聞くようにはしているが、出来る事が限られてしまっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者様の思いを理解するようにしているが職員側のペースになっている時もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来るだけ自分で洋服を選んでもらっているが、重ね着しすぎているような時は気をつけて声掛け行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材は真空パックの状態が届く為、テーブルを拭いてもらったり食器を拭いてもらったりしている。 (外部評価) 食材は外部委託業者から配送され、管理栄養士が献立を作成し、主食を各ユニットで調理している。事業所と委託業者と地域の福祉施設との合同で給食会議を開催し、利用者の食事に対する要望が取り入れられている。季節を感じるように、お花見弁当や芋炊きをしたり、手作りのおやつを作ったり、利用者の楽しみとなる工夫をしている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話をしながら食事をしている。利用者に声かけし、台拭きや食器拭き等できることを手伝ってもらえるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量や水分量など一人ひとりチェックしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアをして頂くよう声掛け行い本人の力に応じて介助を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、パットの量を減らすとともに適切な支援をすることで自立に向けた支援をしている。 (外部評価) 職員の声かけや誘導により、日中はすべての利用者がトイレで排泄を行っている。紙パンツの利用者が多く、利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導をしている。夜間のみオムツを使用している利用者は、時間毎に交換を行っている。ポータブルトイレを利用していた利用者也、状態の改善によりトイレでの排泄を促すなど、柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ラジオ体操、ストレッチなど適度な運動を行うように支援し、しっかりと水分を取って頂くことで便秘の予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 1週間に2回は入浴して頂けるよう曜日は決めているが、拒否があった時などは無理せずに次の日に変更したり気持ち良く入って頂けるよう声掛けの工夫を行っている。 (外部評価) 入浴は午後に行い、週2回は入れるように支援している。利用者の負担に配慮しながら、清潔が保てるよう夏場は週3回入浴できるようタイミングのよい声かけに努めている。入浴の苦手な利用者には、無理強いすることなく時間をずらして声かけしたり、入浴日を変更し入浴できるよう支援している。現在は入浴が苦手な利用者はいないが、同性介助の希望に対応したり、入浴剤を使用するなど工夫して入浴を楽しんでもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して気持ちよく眠れるよう無理に声掛けはせず一人ひとりの生活のリズムを大切にしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 病院からの処方箋をよく理解し、服薬チェックしながら一人ひとりの症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日のレクリエーションや、食器拭き、洗濯物干しなど一人ひとりにあった役割りや楽しみを持って頂くよう支援しているが何名かは難しい方もいる。嗜好品については家族様が指し入れして下さい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 散歩の時間をとって戸外に出て、外の空気、風景の変化など四季感を感じて楽しんでもらえるように努めている。 (外部評価) 事業所周辺の散歩は日常的に行い、日々の気分転換につながっている。お花見やドライブ等年間行事を立て、外出ができるよう支援している。お墓参りや外食等家族と一緒に外出を楽しんでいる利用者もいる。利用者との普段の何気ない会話から、季節を感じるつくし採りに出かけ喜ばれている。利用者の希望に応じて、外出計画を立てて出かけ、生活に張りが持てるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金については事務所預かりになっているが、一部の利用様は、本人が所持している方もいます。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望があれば家族様と電話で話したりして頂いているが、家族様も忙しくされている為、いつでも出来る状態ではないのが現状である。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関、ホールなど季節の物を飾ったり利用者様の手作り作品などを展示している。廊下、トイレなどは不要な物は置かず、広く居心地良く過ごせるようにしている。 (外部評価) リビングルームは広いスペースが確保され、食卓やソファがあり、日中はホールで過ごす利用者が多く、思い思いの場所でくつろぐことができる。1階に1ユニット、2階に2ユニットがあり広さが異なっており、1階のホールで3ユニット合同でイベントを行っている。利用者の希望で音楽をかけたり、テレビを見たりして楽しんでいる。壁には塗り絵や書道等利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 午前中はホールにて気の合う利用者様同士で話されたりしており、午後からは各居室で個々に過ごされる事が多いがお互いの居室を行き来記されることもある。レクリエーションの時には全員が集まり楽しまれている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様が居宅より本人の使い慣れた物を持参されているので、本人様も馴染みの物に囲まれ居心地良く過ごされている。 (外部評価) 1階にある居室は広く、エアコンとトイレ、洗面台、シャワーの設備があり、夫婦で入居している利用者もいる。2階居室はやや狭い造りとなっている。自宅で愛用していたベッドや家具等を持ち込み、利用者が家族写真の飾りつけやレイアウトを行い、居心地よく過ごせるよう配慮されている。職員は朝清掃を行い、気持ちよく清潔に過ごしてもらえよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者様の居室には各個人の名札、トイレ、お風呂などにも迷わないように分かりやすく工夫している。	